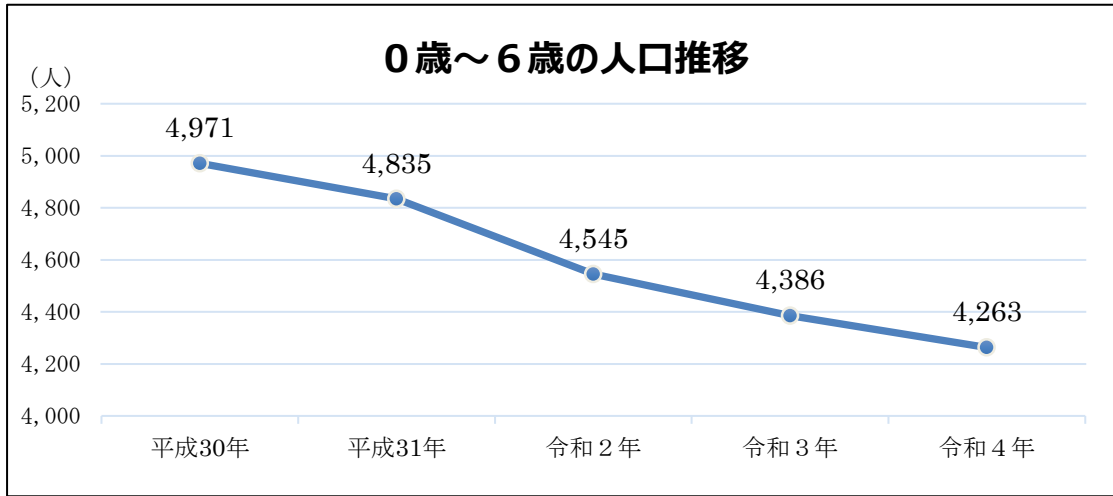


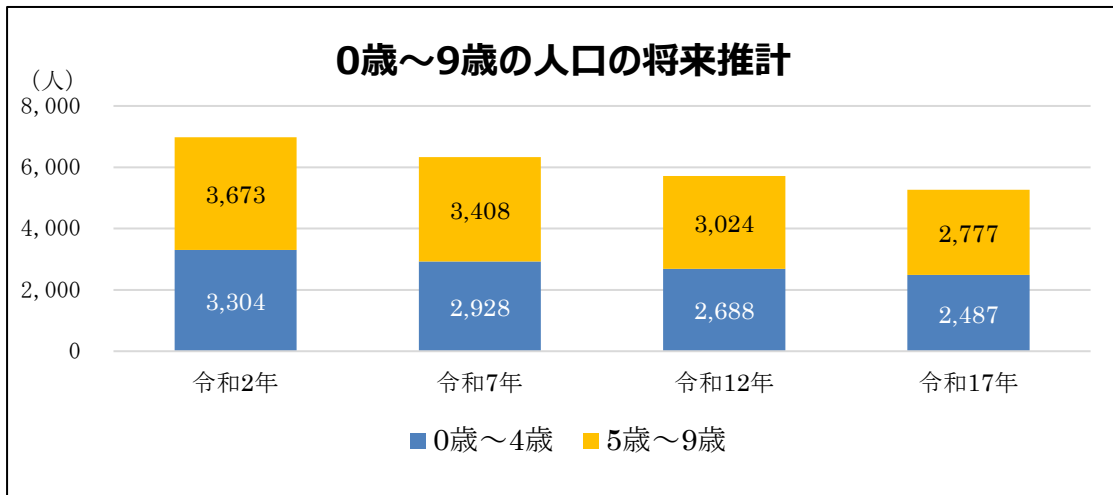
## 三条市の子ども現状

### 1 子どもの人口及び世帯構成

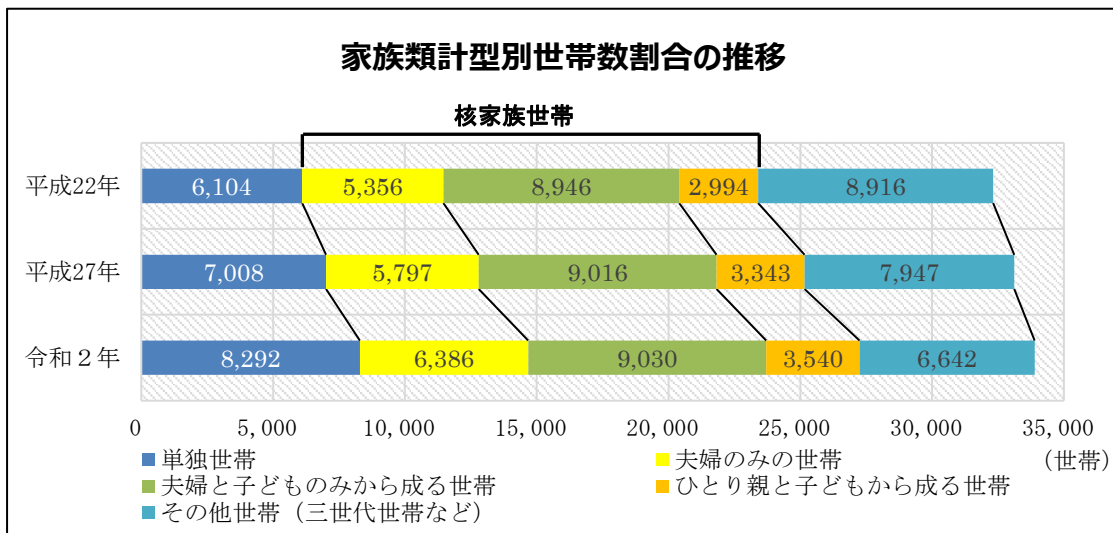
少子化に歯止めがかからない状況が続く中で、世帯の状況も核家族化が進行している状態が続いています。核家族世帯の中でも夫婦のみの世帯とひとり親から成る世帯が平成22年と令和2年を比較しても大きく増加しています。



出典：住民基本台帳（各年3月末日）



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年3月推計）」

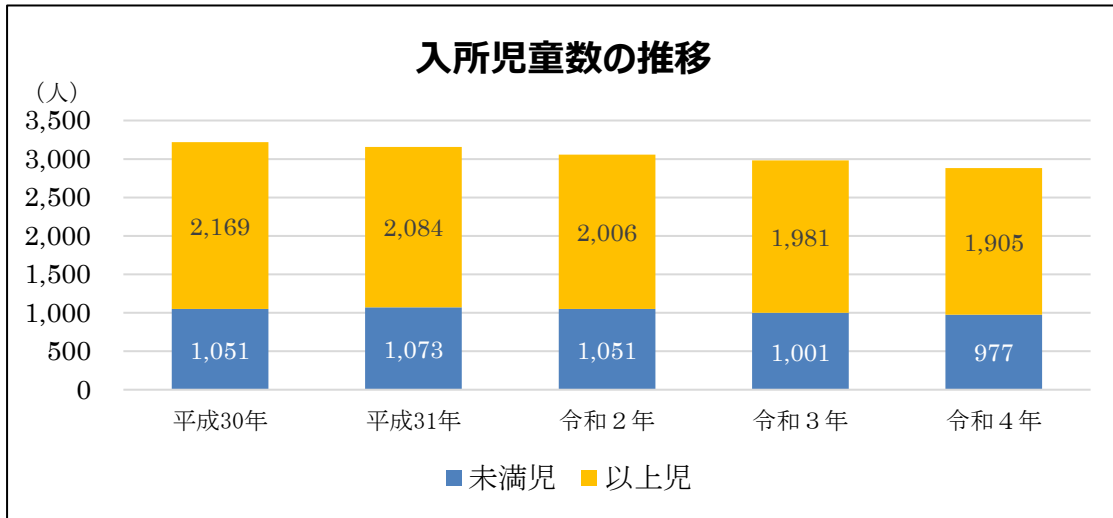


出典：国勢調査

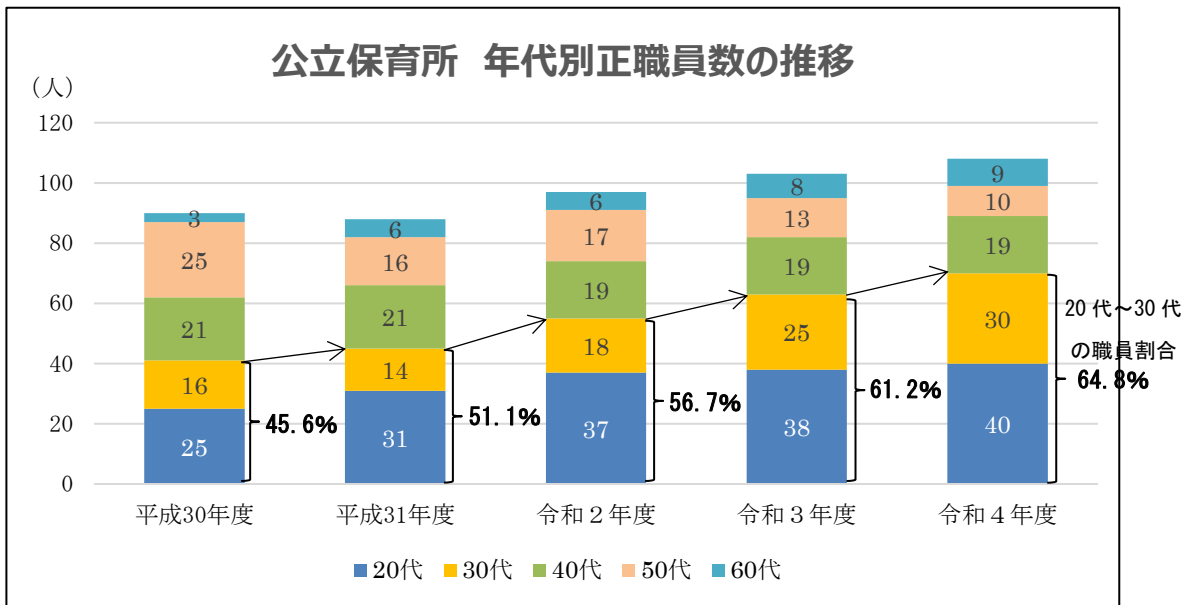
## 2 入所児童数と職員数（公立）

公立及び私立保育所（園）の児童数は年々減少傾向にありますが、未満児（0歳～2歳児）の児童数は横ばいの状況であります。これは核家族世帯が増加傾向にある中で、保護者の共働きなど子どもの世話を手伝ってもらえる家庭環境が減っており、児童を入所させる低年齢化が進んでおります。

また、市内公立保育所の正職員数は児童数が減少しているものの、入所児の低年齢化などに伴い職員数は増加傾向にあります。さらに公立保育所正職員の年齢構成については、ベテラン職員の定年退職により若手職員が増えており、20～30代の職員が全体の半分以上を占め今後は保育士のスキルアップが必要となっております。



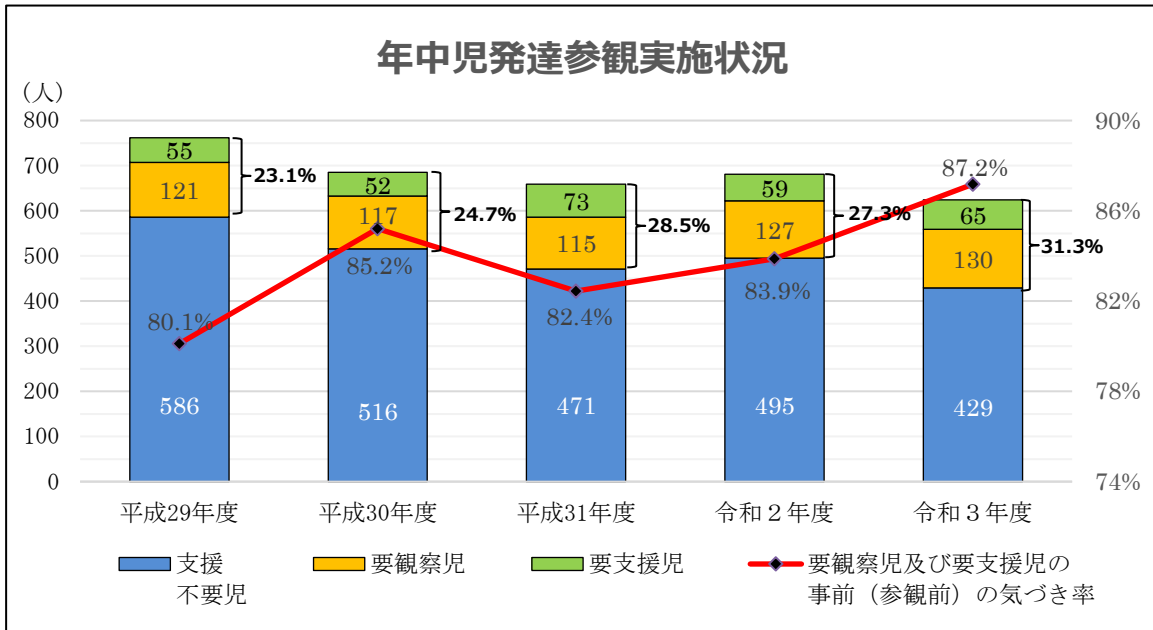
各年4月1日現在の入所児童数（広域委託入所を含む） 出典：三条市教育委員会



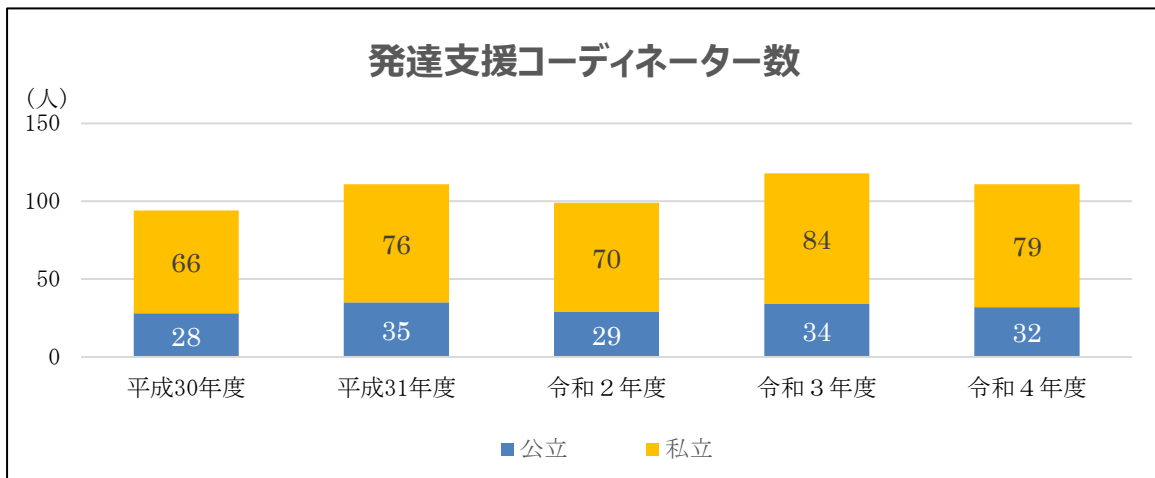
出典：三条市教育委員会

### 3 特別な支援を要する幼児の現状

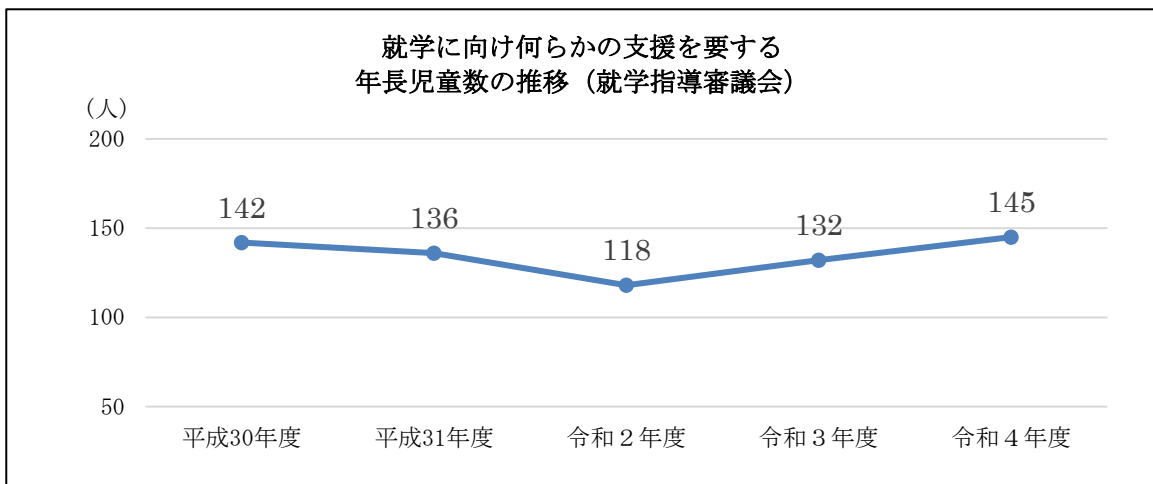
これまで年中児発達参加において、子ども一人一人の成長した姿を確認していますが、要観察児や要支援児の全体に占める割合が例年増加傾向にあります。また、発達参観前に児童の発達特性等に気づく率が年々増加しています。今後も若手職員数が増加しているため発達支援コーディネーター研修などにより、保育士等が発達障がいの特性についての知識を深める必要があります。



出典：三条市教育委員会



出典：三条市教育委員会



出典：三条市教育委員会